速報
第１号

２０２６年
６月５日発行

龍の手を形どる千葉から、手話の花（オオガハス）を永遠に咲かせよう。

2027年6月3日(木)～6日(日)

第75回全国ろうあ者大会inちば

主催：一般財団法人全日本ろうあ連盟　主管：社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会

千葉県千葉市で開催します。

千葉市は、2026年に丁度開府900年を迎えます。千葉の歴史を築き上げた千葉常胤（ちばつねたね）は千葉氏中興の祖と言われ平安から鎌倉後期まで活躍した武将です。

源頼朝との縁が深く、常胤は頼朝を文武ともに支え続け、頼朝もまた常胤を師と仰ぎ父と仰ぎ全幅の信頼をおく関係でした。頼朝が鎌倉に幕府を構えたのも、常胤の強い進言によるものでした。

常胤の息子たちは六党と呼ばれ、東北から九州まで全国各地に千葉氏の精神を広げました。新渡戸稲造は千葉氏の子孫であり、日本人の精神・アイデンティティである武士道を唱えましたが、ろう者のアイデンティティである「手話言語」を先人の精神を引き継ぎ千葉から発信できればと願いつつ・・・

メイン会場の千葉ポートアリーナ
（10月以降、ちばぎんアリーナに愛称変更）

「芸術祭」開催の
美浜文化ホール

「美術展」開催の
さや堂ホール

実行委員長のあいさつ

第75回全国ろうあ者大会は千葉県初の開催でありますので大変緊張しておりますが、鋭意準備を進め大会成功につなげたいと思います。今回、全日本ろうあ連盟は創立80年の節目の大会となりますが、遡ること80年前、くしくも連盟創立準備の拠点がここ千葉県であったことに感慨を覚えます。

終戦直後の混乱期、東京聾唖学校（当時は東京都内）も空襲で焼失したため、連盟設立準備は、千葉県市川市国府台の旧兵舎（現、筑波大学附属ろう学校）を舞台に進められました。全国各地からろう者のリーダーが旧兵舎に一堂に会して会議を重ねた記録があります。

「伊香保」から始まった全日本ろうあ連盟の歴史の原点の1ページが千葉県（市川市）にあり、また、連盟初代副会長の故・三浦浩氏は当主管団体の前身千葉ろうあクラブ会長です。ろう運動の原点から道を切り開いてきた先人たちに想いをはせながら、80年目の大会の準備を進めてまいります。

皆様に千葉の様々な文化・歴史など堪能していただけるよう一同最大限頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

実行委員長　植野 圭哉

【連絡先】社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会「第75回全国ろうあ者大会　実行委員会事務局」〒260-0022千葉県千葉市神明町204-12
FAX043-308-5562　TEL043-308-6372　E-mail：75chiba@chibadeaf.or.jp　www.chibadeaf.jp/75chiba/

第75回全国ろうあ者大会inちば

2027年
6月3日(木)～6日(日)

千葉の民話「龍伝説」をモチーフにしたシンボルマークです。

この写真の雲の形が龍に見えます（印旛沼・聾者撮影）

ちばの「龍」 よもやま話

2027年の全国ろうあ者大会は、全日本ろうあ連盟創立８０年目の貴重な節目にあたります。全日本ろうあ連盟のロゴマークは「龍の落とし子」をかたどったもので、「龍」の耳…と言われ、ろう者のアイデンティティの象徴として、ろう運動の歴史を牽引してきました。千葉出身の大原省三画伯(聾者)がデザインを手がけたそうです。

千葉県には龍伝説の多い地域として知られており、その一つに「印旛沼の龍伝説」という民話があります。この印旛沼の空には今でも、龍の形をした雲が出現し、悠然と動く姿を目にします。印旛沼は、千葉県の地図で見ると、丁度「チーバくん(赤色の千葉県のマスコットキャラクター)」の眼のあたりに位置しますが、この沼は、１万五千年前まではナウマン象が生息していたと言われ、近年骨が発見さていて古来から続く沼地です。また、印旛沼沿いに「龍」を奉る神社(龍角寺・龍腹寺・龍尾寺など)も数多くあり、龍像を彫った橋も現存します。

一説によると、日本の地形は「龍」そのものの形であり、北から龍の角、摩周湖は千里を見る眼、胸は岩手のリアス式海岸、東京は龍の心臓、大阪は龍の生殖器、尾は沖縄など、日本列島の各地域が龍の体の部位にたとえられています。

千葉はちょうど「龍の手」に当たる位置にあり、龍神が手に持っている珠玉は、「手話言語の宝珠」であると願いたいものです。

【連絡先】社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会「第75回全国ろうあ者大会　実行委員会事務局」〒260-0022千葉県千葉市神明町204-12
FAX043-308-5562　TEL043-308-6372　E-mail：75chiba@chibadeaf.or.jp　www.chibadeaf.jp/75chiba/